

# 総務常任委員会行政視察概要

令和7年8月8日（金）

於 小牧市議会 委員会控室

午前10時～午前11時30分

## 1 調査概要

「災害時におけるペットとの避難について」

防災危機管理課 課長

防災危機管理課 副主幹

小牧市では令和5年度に作成した「避難所におけるペット対応マニュアル」をもとに避難所でのペット同伴・同行避難を行っている。災害時に自宅に置いてきたペットのために自宅に戻った飼い主が二次災害にあたり、ペットを放浪状態のまま放置することで、住民に危害をもたらす恐れもあることからペットとの同行避難に取り組んでいる。経緯としては、愛知県は「人とペットが共生できる愛知」の実現を目標に取り組み、隣接する犬山市が令和4年12月からペット同行避難の受け入れをはじめたことから小牧市もペット同伴避難が可能となるよう、施設の確保、マニュアルの作成などを開始した。同伴避難とは同室避難であり、全中学校、市民会館、3市民センターの13施設。避難所の運営は、市職員、施設管理者だけでなく、避難者にも携ってもらい、飼い主の会を避難中に立ち上げることでペットの飼養管理を行ってもらう。ペットに関わる資機材は各施設にプライベートルームテント5張、ペットクレート2個を設置している。



## 2 主な質疑応答

問 これまでの開設実績について。

答 災害及び訓練において避難所に連れてきた実績はない。令和6年度に総合防災訓練で実施しようと考えていたが、アレルギー問題について学校から意見があり実施できていない。

問 人間には備蓄品があると思うが、ペットの分もあるのか。

答 マニュアルにも飼い主に用意するように定めている。しかし実際に災害協定を結んでいるホームセンターから調達する形になると思われる。動物病院との協定もないが県が獣医師会と協定を結んでいる。

問 市民へのペット同室避難についての周知方法について。また災害時に備えて準備をするように周知しているのか。

答 毎年、各学校区で7、800人ほどが参加している総合防災訓練の中でペット同伴避難資機材展示及び啓発を実施している。ペット用品の備蓄の必要性についてもアナウンスしている。

問 ペットを飼っている人の件数や同伴の意思について調査はしているのか。

答 ペット同伴についての考えや備蓄の有無、しつけをしているか等について総合防災訓練の際にアンケートを実施。地域によってばらつきはあるが、関心は高まっていると感じている。

問 中学校のアレルギーの受け入れは。

答 特別教室を使用することで学校からは認められている。

問 マニュアルの基本的な考え方について。

答 人に速やかに避難してもらうためにペットを救う。その入り口をまずは設けた。内陸にあることから津波の心配はしていない。また、震度も低いとみている。内陸地震は被害の範囲が限られているので応援も比較的早い段階で来てもらえることも想定している。

問 予算は。

答 テント65張と、クレート30個で130万円。3分の1県の補助を受けた。



問 事前に避難できるかどうか判断はしないのか。

答 大きさだけでなく、病気、感染症やワクチンの有無、D Xでマイナンバーカードを提出させるなどあるが今後の検討事項。地震があったときにホームページを市民が見れるわけではなく、また避難所に防災の職員はおらず、開設した職員たちに判断してもらう必要が出てきて負担になると考えている。今後の検討課題。

以上